

排出抵抗が増すことを考慮していない点です。排出口が水没すれば水の抵抗によって排出時間が延びる可能性があります。水は弾丸をも止める抵抗力を持ち、簡易な実験では排出時間が倍になりました。そこで、工事終了後に実際の排出能力を確認したうえで、不測の事態に備えて圧送できるよう対策すべきとの意見を付して賛成することとします。

また、沼幌川沿線の土砂流出対策関連予算は、先般の大雨で損壊した町道の復旧に関するものです。損壊箇所を早急に原状回復させ、町民の生活と経済活動を担保すべきですが、過去10年間に度々損壊箇所の復旧あるいは冠水による土砂の撤去に約1,300万円を要しており、さらに今回475万円が上積みされることから、抜本的な対策が必要と考えます。今後、原因と考えられている農地の防災対策を実施することを条件に賛成することとします。

以上、条件付ではありますが、議案第69号「令和5年度標茶町一般会計補正予算第7号」に賛成の立場での討論とします。

◆◆◆◆ 令和5年 第3回定例会賛否一覧 ◆◆◆◆

※これ以外の議案等は全員一致です。

議員名	深見 迪	櫻井 一隆	本多 耕平	鈴木 裕美	鴻池 智子	齊藤 昇一	黒沼 俊幸	長尾 式宮	松下 哲也	渡邊 定之	類瀬 光信	菊地 誠道	結 果
議案等の内容													
議案第61号 標茶町表彰条例に基づく被表彰者の決定について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	除	○	△	原案可決
意見書案第65号 標茶町税条例の一部を改正する条例の制定について	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	△	原案可決
意見書案第11号 現行の健康保険証の存続を求める意見書	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	△	原案可決
意見書案第12号 消費税インボイス制度中止を求める意見書	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	△	原案可決
意見書案第13号 義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	△	原案可決
意見書案第14号 道教委「これからの高校づくりに関する指針」を見直しすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書	○	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	△	原案可決

○ 賛成 × 反対 退 退席 欠 欠席 除 除斥 (議長は、可否同数以外の採決には加わりません。)

意見書

次の8件の意見書が提出され、賛成多数でいずれも可決しました。

◆意見書案第7号

ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

活力ある森林づくりや道産木材の利用、防災・減債対策をさらに進め、ゼロカーボン北海道の実現に資するよう3項目の措置を講ずるよう求めたものです。

◆意見書案第8号

国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書

高規格道路や市町村道の老朽化対策、整備、除雪対策など、6項目の要望を国に求めたものです。

◆意見書案第9号

地方財政の充実・強化に関する意見書

国に対して2024年度の政府予算と地方財政の検討にあたって、地方交付税の法定率の引き上げなど10項目について要望したものです。

## ◆意見書案第10号

特別支援学校・学級等への教員等の適切な配置を求める意見書

医療的ケアを含めた特別支援教育が必要な児童生徒に的確な教育を実現するため、教員の定数改善など財政措置を含めた6項目の要望を国に求めたものです。

## ◆意見書案第11号

現行の健康保険証の存続を求める意見書

現行の保険証が廃止されればマイナンバーカードを持たない人が保険診療を受けられなくなる恐れがあるため、現行保険証の存続を求めたものです。

## ◆意見書案第12号

消費税インボイス制度中止を求める意見書

中小企業・小規模、個人事業者の存続と地域経済振興のためインボイス制度実施の中止を求めたものです。

## ◆意見書案第13号

義務教育費国庫負担制度堅持・負担率2分の1への復元、「30人以下学級」など教育予算確保・拡充と就学保障の実現に向けた意見書

義務教育機会均等・水準の最低保障を担保するため、国の負担が2分の1から3分の1に減らされたのを以前のとおり2分の1に戻すなど5項目について求めたものです。

## ◆意見書案第14号

道教委「これからの高校づくりに関する指針」を見直し、すべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書

希望するすべての子どもにゆたかな後期中等教育を保障することなどを求めたものです。

## 厚生文教委員会所管事務調査報告

調査日時 令和5年7月19日午後1時〜  
調査場所 標茶町立病院  
標茶町役場議員室

## 1. 出席者

委員 櫻井委員長・渡邊副委員長・深見委員・鈴木委員・鴻池委員・類瀬委員

説明者 伊藤病院事務局長・菅野事務次長・日比野事務次長

事務局 中島議会事務局長・平間議事係長

## 2. 調査事項 標茶町立病院の現状と課題について

## 3. 主な資料説明

・伊藤病院事務局長から、休止している救急外来の早期再開の条件や見通しについて説明があった。休止の最大の要因は看護師不足であること。現状では、看護師の平均夜勤時間を72時間以内とすることができないため当面休止せざるを得ないと判断した。

・その後、救急病院の再開のため職員確保の方策、また、医師及び職員の現状と不足している人数の説明があった。

・次に、老朽化している病院施設の改修の課題について説明があった。今後改修を検討すべき事案として、①浴室の改修については、レジオネラ菌を根本的に除去するためには浴室自体を改修する以外にないとの考えが示された。②空き病室への対応については、病床数の70%を維持しなければならぬが、現在40%であり、これは今後も大きく変わらないという見通しから空き病室を効果的に利用するための施策を考える必要があるということであった。③老朽化に伴う修繕及び改修については今後計画的に進めていきたいが、特に排水設備について根本

的な改修が必要であることが示された。

・患者の苦情処理で最も多いのが「待ち時間の長さ」である。改善に向けて努力しているが現状以上の短縮が難しいことから業務のデジタル化が図れないかを検討していきたいとの説明があった。

・病院経営について現状と今後の見通しについて説明があった。救急外来の休止に起因する診療報酬の見直しについては、診療報酬の減算はないものとなっている。ただ、入院患者、外来患者への影響については単純な比較はできないが減収が出ることも考えられる。さらに分析が必要である。

・繰入金金は、令和4年度の見込みで6億6,397万3千円となっている。このうち町からの繰入金は3億8,182万4千円の見込みである。

・最後に地域医療構想と公立病院経営強化プランについて説明があったが、計画は5年度内に作成する見通しであるが、まだ北海道医療計画の策定における調整会議が行われていないので先行き不透明である。ただ、従来の町立病院が果たしてきた役割は今後も改善しながら維持していく基本方針は堅持していきたい。

#### 4. 主な質問

・委員からの質問は、救急外来の早期再開とそれを保障する人材確保についてが多かった。

Q: 人材確保のための住宅の確保をすべき。

A: 公住や役場職員住宅などを考えている。

Q: 空き病室の対応で、介護医療院構想はどうなったのか。

A: 介護医療院構想となると保健福祉課の分野でもあるが、人員確保が困難である現状では難しいと考えている。

Q: 病棟と外来の看護師確保で困難な点は何か。

A: 夜勤可能な看護師の確保が難しいのが現状である。看護師確保については、看護師のネットワークや役場職員のネットワークにも期待して取り組んでいる。

Q: 令和5年度において北海道の地域医療構想に係る調整会議はなぜ遅れているのか。

A: 北海道のことなのでなぜ遅れているかについては、今のところ分からない。

#### 5. 委員会の所見

・常勤医師をはじめ病院職員の確保については、全国に範囲を広げるなど努力をしている。町理事者、町立病院の更なる努力に今後とも期待したいが同時に、町民ぐるみの人材確保のための運動も、各職場等のネットワークなど活用して取り組む必要がある。病院や役場任せにせず、地域唯一の公私立病院を守る全町的な説明会や運動が必要と考える。

・北海道地域医療構想の調整会議は、コロナ禍により遅れているが、今後の動向を注視していきたい。同時に住民の意見、要望が反映される医療構想になるよう期待したい。

・本町の「公立病院経営強化プラン」の策定は、令和5年度に予定されているが、患者や町民の意見、要望、議会の意見が反映されるよう期待したい。

・町立病院の救急外来の休止について多くの町民の不安が出ている。今後、地域住民の生命と健康を守るため、継続して調査する必要がある。また息の長い全町的運動を計画していく必要があると考える。

